

講座番号 A0605004	日本女子体育大学企画講座 舞踊学入門 ~ 舞踊芸術と身体表現を考える ~
------------------	--

講座趣旨
<p>古代から現代まで、絶えることなく人類の生活文化に生き続けている舞踊。本講座では、バレエやモダン・ダンス、コンテンポラリー・ダンスなど、舞踊芸術の歴史的展開を中心に、現代にいたるさまざまな身体表現、芸能にも触れながら、映像を交えつつ概観していきます。</p> <p>日本で唯一の舞踊学専攻を持ち、実技と理論の両面から、幅広く身体表現、舞踊芸術について研究を続けている日本女子体育大学が、これらの魅力を余すことなくお伝えいたします。</p>

講座開催概要	
日程	5/18～7/6 毎週木曜日
時間	19:00～20:30
定員	先着25人
回数	8回（ご希望の回を選んで受講できます）
受講料	各回 1,000円 三鷹市民一般 各回 700円 三鷹市民学生 各回 600円
教材	レジュメ資料
難易度	
会場	三鷹ネットワーク大学 教室B

第1回	5月18日	講師	島内 敏子 教授
タイトル	身体(からだ)で語る世界		
講座内容	私たちの身体や身体の動きは、言葉を介すことなく、それ自体で多くを語っています。日常の身体やその動きがつむぎだす豊かな表現世界を見ていきます。また、こうした表現的特質をもつ身体をベースにしながら、独自の表現法をもって歴史的地理的に多様に展開する文化としての舞踊の広がりを見学します。		
第2回	5月25日	講師	高橋 進 教授
タイトル	人類最古の芸術としての舞踊		
講座内容	舞踊は文化活動として原始時代から現代まで、ずっと人間の身体表現活動の中心をなしてきました。人類最古にして最新の芸術としての舞踊を理解するため、文化人類学や世界の神話を手がかりに、原始時代や未開社会の身体表現を紹介し、舞踊の原型を考えます。		
第3回	6月1日	講師	小山 佳予子 助教授
タイトル	クラシックバレエの展開		
講座内容	クラシックバレエの展開を紹介します。ルネッサンス期に貴族が社交ダンスをしていた時代から始まり、ルイ14世の庇護を得て、やがて劇場の舞台に上がるようになります。職業としてのダンサーが登場して、言葉を使わずに身体の動きであるダンスとマイムだけで、物語を展開するようになり、19世紀に完成をみるバレエの歴史をたどります。		
第4回	6月8日	講師	松澤 慶信 助教授
タイトル	20世紀ダンスの思想		
講座内容	19世紀に完成を迎えたといわれるバレエですが、その否定から始まったモダン・ダンスは、やがて独自の語法と語彙(表現技法と表現スタイル)をもって、劇場芸術としてのダンスを確立させていきます。しかし、戦後1960年代を皮切りにダンスはまた大きく変貌していきます。20世紀に生まれたモダン・ダンスとその変容を概観します。		
第5回	6月15日	講師	高野 美和子 講師
タイトル	ダンス・インプロヴィゼーションからクリエイションへ		
講座内容	現代のダンス(コンテンポラリー・ダンス)では、動きを生み出す過程において、インプロヴィゼーションが多様に導入され、今や、振付、創作、上演には欠かせない作業となっています。ダンスにおけるインプロヴィゼーションの歴史的背景や、現在の状況、また、そこから創作へつながるプロセスを紹介します。		
第6回	6月22日	講師	牧 琢弥 助教授
タイトル	ダンスとマルチメディア		
講座内容	本講座でコンテンポラリー・ダンスの基本的概要を学んだ受講者が、それらについての理解を深めていただくために、現在のコンテンポラリー・ダンスの舞台づくりのプロセスにおいて、マルチメディアがどのように使われるかを概観し、その一つの例として、リアルタイムに映像処理する技術を使ったダンス・パフォーマンスを紹介します。		

第7回	6月29日	講師	加賀 岳彦 講師
タイトル	演劇・身体・言葉		
講座内容	日本の近・現代劇の流れの中で、演劇における身体および身体表現に対する考え方がどのように変遷してきたかを論じます。同時に、身体と言葉の問題、翻訳劇の問題などにも触れたいと思います。		
第8回	7月6日	講師	石原 英樹 講師
タイトル	ダンスが作り出す現代コミュニティ		
講座内容	コミュニティにとってダンスという身体表現がどのような役割を果たすのか社会的視点から考えてみます。「エアロビ」「やさこい」「ヒップホップ」など大衆的な身体表現と、地域や国家政策とダンスの関係を取り上げます。		

講師紹介（敬称略）	
島内 敏子（しまうち としこ） 専門分野は舞踊学、舞踊教育学。運動とイメージの融合する舞踊運動の特質について関心をもち、創造的自己表現としての舞踊の教育と研究を重ねている。ロンドンのダンスと運動の研究所「ラバン・センター」にて研修。	高橋 進（たかはし すずむ） 西洋の哲学・美学を専門とする。（前舞踊学専攻主任。）ユング派の神話学研究をもとに、世界の英雄神話についても研究に取り組んでいる。
小山 佳予子（こやま かよこ） 専門分野は「クラシックバレエ」「比較舞踊学」などでクラシックバレエ作品分析や「パ」の分析を研究。松山バレエ団団員であり松山バレエ学校次席副校長。アメリカ、フィラデルフィアの大学 University of the Arts のゲストティチャー。	松澤 慶信（まつざわ よしのぶ） 舞踊美学、舞踊史学専攻。ダンスの歴史をたどるだけでなく、その背後にある芸術思潮や思想が他の美学芸術学のそれとどのように関わっているのかに関心を持っている。
高野 美和子（たかの みわこ） 専門はコンテンポラリー・ダンス、即興。ラバンセンター（英国）にてダンスディプロマを取得。横浜ダンスコレクション（'03）にて特別賞、トヨタコレオグラフィーアワード（'04）にてオーディエンス賞を受賞。ダンスカンパニーtime and locus 主宰。	牧 琢弥（まき たくや） 理学博士。大学では、「スポーツとメディアテクノロジー」や舞踊学専攻の授業においてマルチメディア技術を指導している。現在、健康スポーツや舞踊におけるテクノロジーの可能性などの研究をすすめている。
加賀 岳彦（かが たけひこ） 専門は英文学。英国、日本の詩、演劇などを幅広く研究している。日本大学、早稲田大学非常勤講師を歴任。	石原 英樹（いしはら ひでき） 専門分野は文化社会学、社会調査。学生のダンスやスポーツの技能を地域に生かすべく、三鷹の農家でボランティアをしたり、高齢者の健康保持教室のお手伝いをしています。著書『サブカルチャー神話解体』（PARCO出版）ほか。

本講座の受講者の皆さんを、日本女子体育大学で開催されるダンス・イベント、「SHOWCASE 2006 夏」(7/8)、「ダンス・ヒストリー・ツアー」(7/9)にご招待します。